

1学期最終稿

九重町立ここのえ緑陽中 学校

令和8年 8月 27日

8月 27日(木)実施

【学校の教育目標】		自立貢献		資質・能力との関連		学校自己評価					学校関係者評価		
【育成を目指す資質・能力】		①課題発見・解決能力		②人間関係形成能力		知識・技能		思考力・判断力・表現力等		学習者への関与・態度			
重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	担当		取組指標の検証	達成指標の検証	達成率(%)	重点目標に対する評価	改善策 今後の具体的な取組			
【知識を深化させ、自己学習の習慣を身に付ける】	○【生徒調査】 学期末アンケート項目「振り返りを通して自分の学びを改善できている」の肯定率(3,4評価)を75%以上。	○ 振り返りの質の向上と可視化の推進。	○ 授業者は、「振り返りの視点(キーワード等)」を提示した授業を毎単元実施する。	本河村小西園廣	○	「振り返りの視点(キーワード等)」を提示した授業を毎単元実施できた」と回答した授業者は75%であった。 単元計画にキーワードを用いた振り返り時間を明示し、ポートフォリオ等で成長を可視化することができた」と回答した授業者は75%であった。 各学年で決められた時間(自学KS90)に集中して振り返りを行い、家庭で声かけを行った授業者は69%であった。	①学期末アンケート「振り返りを通して自分の学びを改善できている」の項目で、生徒の肯定率(3,4評価)は94.2%であった。 →達成率125.6%(94.2/75)	①125.6%	4	自分で学力の改善ができるための視点・手がかりなどを生徒の状況に応じて与えるようにする。 取組指標が75%、69%。教員の取組は充分と考えるのか。その要因は何か。取組を組織的なものと高めの手立てを検討すべきでは？ 「振り返りを通して自分の学びを改善できている」で成果が認められているようなので、家庭学習とより結びつけられる(自学KS90)の達成につながるのではないでしょうか。	・達成指標に対して高い水準を維持しており、基礎的・基本的な学力の定着に一定の成果が認められる。一方、生徒・保護者アンケートからは、家庭学習の時間確保が十分でない状況が窺われる。スマートフォンの活用やタブレット端末等による「ながら勉強」も一因と考えられることから、家庭との連携を図りながら、学習時間の確保と集中して学習に取り組む習慣の定着に向けた取組を進める必要がある。 ・取組指標が75%、69%。教員の取組は充分と考えるのか。その要因は何か。取組を組織的なものと高めの手立てを検討すべきでは？ ・「振り返りを通して自分の学びを改善できている」で成果が認められているようなので、家庭学習とより結びつけられる(自学KS90)の達成につながるのではないでしょうか。		
	【教職員調査】 学期末アンケート項目「振り返りを行なった際に、視点を提供した授業を毎単元で行った」の肯定率(3,4評価)80%以上。	○ 家庭学習の習慣化	○ 保護者は、各学年で決められた時間(自学KS90)に集中して振り返りを行い、家庭で声かけを行う。		○		②学期末アンケート「振り返りを行なった際に、視点を提供した授業を毎単元で行った」の項目で、教職員の肯定率(3,4評価)は75%であった。 →達成率93.8%(75/80)	②93.8%				保護者会や通信などで振り返り呼びかけを行う。	
							①と②を合わせた達成率 109.7%(125.6+93.8)/2						
【思考力・判断力・表現力】	○【生徒調査】 学期末アンケート項目「自主ルール(22時以降使用禁止)を遵守している」の肯定率(3,4評価)を90%以上。	○ メディアリテラシー教育の充実	○ 授業者は、SNSやインターネットを活用した情報発信の機会を、情報セキュリティについて、学期に1回は情報モラルに関する授業を行う。	河津深瀬三田矢野五條	○	学期に1回以上の情報モラルに関する授業を行うことができた。ICT担当の主導のもと、各学年の実情に応じた授業を行った。また、進徳や朝の会・帰りの会で折に触れて話をした。 会話できている家庭は一定しているが、できていない家庭の割合も高いように感じる。	①【生徒調査】 ①「自主ルール(22時以降使用禁止)を遵守している」の肯定率(3,4評価)は73.7%であった、達成率は81.8%(73.7/90)指標をクリアすることはできなかった。	①81.8%	3	今後も学期に1回の情報モラルの授業を行う。出席授業の活用を継続している。 2学期はNTT系(docomo)の方、3学期はスクールロイヤーを呼ぶ予定である。 保護者会や通信などで振り返り呼びかけを行う。 引き続き2学期も職場体験や職業講話の取組で協力要請する。	・家庭学習の充実も重要であることから、保護者を対象とした学習支援に関する研修会等の開催を検討してはどうか。また、「このえ学習基盤計画」に掲げる「このえ学」の理念を踏まえ、探究学習(総合的な学習の時間)を通じて、地域を題材に自ら考え、判断し、表現する力を育む取組の充実を期待したい。 ・家庭での会話については、保護者からの積極的な取組が大事だと思います。		
	【保護者調査】 学期末アンケート項目「家庭内でニュースや新聞記事を読んだ」の肯定率(3,4評価)を80%以上。	○ 親子ディスカッション	○ ニュースや新聞記事を読んだ、社会で起きている様々な出来事について会話をした。		○		②【保護者調査】 ②学期末アンケート項目「家庭内でニュースや新聞記事を読んだ」の肯定率(3,4評価)は78.6%であり、達成率は98.2%(78.6/80)指標をクリアすることはできなかった。	②98.2%				①と②を合わせた達成率 90%(81.8+98.2)/2	
		○ ここのえ学への協力	○ 地域は、ゲストティーチャーとして授業や体験活動・探究活動に対して、学校の要請に基づいて積極的に協力する。		○		①と②を合わせた達成率 90%(81.8+98.2)/2					どちらの調査も評価「ありそう思わない」の割合が多い。今後、その割合を3割もしくは4割以上にすることが課題である。	
【学びに向かう力、人間性等の育成】	○【生徒調査】 学期末アンケート項目「ICT等を活用した交流により、考えが広がった」の肯定率(3,4評価)70%以上。	○ 良好な人間関係の構築	○ 学級担任(副担任)は、毎週1回、短時間人間関係づくりプログラムを実施する。	菊池大野岡村小野日野	○	学級担任(副担任)は、毎週1回、短時間人間関係づくりプログラムを実施するの実施率は100%だった。 「授業者は、単元に1回以上、生徒がICT等を使って考えを交流する場面を設定する。」の肯定率(3,4評価)は56.2%だった。	①「ICT等を活用した交流により、考えが広がった」の肯定率(3,4評価)95.8% →達成率136.9%(95.8/70)	①136.9%	4	人間関係プログラムの取組を内容を工夫し、生徒の実態を考慮して継続していく。 日常の授業より交流の場面を仕組む、学び合いのよさを意識して取り組む。 保護者には連絡や懇話会で、生徒には学活で家庭での役割や貢献の大切さについて話をしている。 2学期以降も地域のボランティア活動を紹介し参加を促していく。	・達成指標に対する生徒と教職員の回答に大きな隔たりが見られ、両者の意識差が明確となっている。今後は、その要因を検証し、改善する必要がある。また、地域ボランティア活動については、一部に参加意欲や取組意欲が十分でない状況も見られることから、単なる行事参加にとどめず、地域の一員としての責任を持つて行動する意識や、意欲・貢献の心を指導し一層高める必要がある。 ・交流する場面設定済み。授業者が設定できないのは何故なのか。高める手立てを検討すべきでは。 ・ボランティア活動に参加している生徒は地域とのつながりも感じられた。地域も元気をもらっていると思います。地域の一員としての役割が今後の将来へのヒントになれば幸いです。		
	【教職員調査】 学期末アンケート項目「授業者は、単元に1回以上、生徒がICT等を使って考えを交流する場面を設定する。」の肯定率(3,4評価)80%以上。	○ 協働的な学びの実施	○ 授業者は、単元に1回以上、生徒がICT等を使って考えを交流する場面を設定する。		○		②【授業者は、単元に1回以上、生徒がICT等を使って考えを交流する場面を設定する。」の肯定率(3,4評価)56.2% →達成率70.4%(56.2/80)	②70.4%				①と②を合わせた達成率 103.7%(136.9+70.4)/2	
		○ 家庭内協力体制の構築	○ 保護者は、各自の家庭内での役割分担を明確にし、協力体制を構築する。		○		①と②を合わせた達成率 103.7%(136.9+70.4)/2						
		○ 地域ボランティア活動の推進	○ 地域は、地域で行われているイベントやボランティア活動への中学生の積極的な参加を呼びかける。		○	社会福祉協議会から依頼のあったボランティアの呼びかけを行い、チラシを配布した。							
【働き方改革の推進】	○ 学期末職員アンケートにおいて ①月平均40時間以内(在校超過勤務時間を抑えられた)という肯定的回答をする教員の割合を70%以上。 ②「1学期中に計画年休を2回取得できた」割合を70%以上。	○ 職員会議を学期に1回(年当初を除く)に、内容を精選することで放課後の時間を確保する。 ○ 計画年休の取得(学期中に最低2回取得する) ○ 情報共有を確実に行う。	○ 3役員・運営委員会を週1回開催し、そこで職員連絡会や職員会議や職員連絡会の内容について確認する。 ○ 定期考査期間と職員連絡会の日程調整を行い、年休取得を促進する。 ○ 連絡情報のデジタル化を進め、各種会議の効率化を図り、超過勤務時間を前年度超過時間比5%削減。	校長・教頭・主幹・事務	○	校長会を受けての3役員、週1回の運営委員会を開催し、事前に提案内容を配布することで会議の時間短縮を図った。 期末考査を3日間とし、職員連絡会をテストのない1日にすることで年休が取りやすくなった。1学期中に計画年休を2回取得できた割合が61.9% →達成率88.4%(61.9/70) R7年度1学期超過勤務時間の月平均45時間53分 R8年度1学期超過勤務時間の月平均48時間16分 2時間23分増(5.2%増)	①月平均40時間以内(在校超過勤務時間を抑えられた)という肯定的回答をする教員の割合が61.9% →達成率88.4%(61.9/70) ②「1学期中に計画年休を2回取得できた」割合が61.9% →達成率88.4%(61.9/70) ①と②を合わせた達成率 72.8% ((57.1+88.4)/2)	①57.1% ②88.4%	2	運営委員会の提案で協議が必要なものの、連絡のみのものを分類することで時間短縮を図る。 毎月4水曜日のノ一残業デーの取り組みを確実に実行する。 定期考査の年休取得できるように、職員間で配慮する。 TODDリストを作成し、タイムマネジメントを行う。 公務パソコン、クロムブックのデータの活用、連絡先において協議するものも、連絡のみのものを分類することで時間の短縮を図る。	「働き方改革の推進」については、評価が低い状況が踏まえ、重点的な取組が必要である。教職員一人当たりの時間外勤務が他自治体と比較して突出してないが客観的に検証するとともに、土・日の部活動に伴う後援者の確実な実施と管理を徹底する必要がある。また、ノ一残業デーについては、管理職が率先して退勤するだけでなく、全職員の定時退勤を促し、見聞ける姿勢を求めたい。 ・超過勤務については、どこに課題があるのか検証し、抜本的な対策が必要と考えられる。個々の取組だけでは改善しないのではないかと。		

(評価 4:100%以上 3:80%以上100%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ※%は達成率)